

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 本邦紙  
報道

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43836">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43836</a>

報道(外電)

1  
29

UPI-199

OKINAWA 1-29

配 布 先

大臣、次官、外審、官房長、情長

（複製）  
（複製）  
（複製）

BY FREDERICK H. MARKS  
TOKYO, JAN. 29 (UPI)--THERE IS A POSSIBILITY THAT SOME MEMBERS OF THE U.S. SENATE MIGHT TRY TO BLOCK THE RETURN OF OKINAWA TO JAPAN IF THE U.S.-JAPAN TEXTILE DISPUTE ISN'T RESOLVED, AN OFFICIAL AMERICAN SOURCE SAID TODAY.

THE NIXON ADMINISTRATION, HOWEVER, WILL NOT TRY TO AVOID SUCH A POSSIBILITY BY BYPASSING THE SENATE ON THE RETURN OF THE ISLANDS, THE SOURCE SAID.

NEGOTIATIONS ARE UNDERWAY BETWEEN JAPAN AND THE UNITED STATES ON THE RETURN OF THE RYUKYU ISLANDS TO JAPAN AFTER OVER 25 YEARS OF AMERICAN OCCUPATION. THE ISLANDS ARE EXPECTED TO BE GIVEN BACK SOMETIME IN 1972.

THE SOURCE SAID THE NEGOTIATIONS WERE GOING +SMOOTHLY,+ ALTHOUGH HE DECLINED TO SAY WHEN THEY WOULD BE ENDED. HE SAID THE ANNOUNCEMENT OF A DATE ON THE CONCLUSION OF THE NEGOTIATIONS WAS A +BARGAINING TACTIC+ WHICH THE UNITED STATES WON'T USE.

+WE CERTAINLY SEE INDIVIDUAL CONGRESSMEN WHO WOULD ATTEMPT TO DO THIS,+ THE SOURCE SAID WHEN ASKED ABOUT THE POSSIBILITY OF TROUBLE WHEN THE SENATE RATIFIES THE AGREEMENT.

+BUT WE BELIEVE THERE'S NO CONNECTION BETWEEN THE TWO (OKINAWA AND TEXTILES) AND THERE SHOULDN'T BE,+ THE SOURCE SAID.

THE SOURCE SAID THAT NO DECISION HAS BEEN MADE YET ON HOW TO PRESENT THE AGREEMENT TO THE SENATE. HE SAID, HOWEVER, THAT THE AGREEMENT WOULD BE PRESENTED TO THE CONGRESSIONAL BODY IN SOME FORM.

(MORE)

7-440P/09 6Y

アメリカ局長  
参事官

UPI-200

OKINAWA 1-29

1ST ADD OKINAWA TOKYO XXX SOME FORM.

MOREOVER, IF THE UNITED STATES DESIRES TO INCREASE ITS MILITARY FORCES ON OKINAWA AFTER THE TURNOVER IN THE EVEN OF TROUBLE IN ASIA, CONSULTATIONS WOULD BE HELD WITH JAPAN.

+WE'RE NOT GOING TO DO ANYTHING UNILATERALLY WITHOUT CONSULTING JAPAN,+ HE SAID. +IF CONSULTATIONS WERE NECESSARY, THEY'D BE HELD.+

THE SOURCE TERMED JAPAN'S DEFENSE BUILDUP AS +RESPECTABLE,+ BUT ADDED THAT THE UNITED STATES IS NOT CONCERNED OVER A RETURN TO MILITARISM IN JAPAN.

+WE DON'T HAVE ANY CONCERN OVER MILITARISM IN JAPAN,+ HE SAID. +THERE'S A CONFUSION OF CAPABILITIES AND INTENTIONS+ (IN THE REPORTS OF A RETURN TO MILITARISM HERE.)

JAPAN HAS THE CAPABILITY TO INCREASE HER ARMED FORCES SIGNIFICANTLY, BUT THE APANESE DON'T INTEND TO DO SO, HE SAID. +THIS GENERATION OF PEOPLE WILL NEVER BE PUSHED BACK DOWN THAT ROAD.+

THE SOURCE MADE THE COMMENTS IN A BACKGROUND BRIEFING FOR AMERICAN NEWSMEN. UNDER THE GROUNDLES, THE SOURCE CAN NOT BE IDENTIFIED. (UPI)

T-444P/097Y

-0-

(READ IN 5GH PGH XXX BUT THE JAPANESE DON'T ETC.)



▲共A228政6(80)④完  
①LX①(4)

◎基地提供は原則を明記  
沖繩協定の骨格固まる

沖繩返還協定づくりのための日米交渉は、四月調印を目ざして進められているが、これまでの日米折衝で協定の骨格が固まった。

米長 社  
地長

先 布 配

長、情、官、房、外、次、大  
長、情、官、房、外、次、大

二月初めまでの日米折衝で大筋の合意に達しているのは①日米安保条約はじめ日米間の取り決めに沖繩地域に適用する②返還後、米軍に提供する基地は安保条約(第六条)に基づき地位協定の手続により定める③平和条約発効前の対米請求権は放棄するが、補償もれなど根拠のあるものは対米請求する④民事、刑事とも米施政権下の裁判の効力を原則として有効とするが、刑事事件判決については、再審など救済の道を残す⑤県民の福祉に役立つ米資産は本土政府が引き継ぐ⑥米資系企業の扱いは国内措置として処理する一などの点である。

(続) 138

1741

▲共A229政61②  
◎基地

政府は、米議会に対する交渉経過説明について本國政府と打ち合わせるため、今週末に一時帰国するスナイダー(駐日公使)が二月下旬帰任するのを待って、最終折衝にはいる方針である。

沖繩返還協定作成のための日米交渉は月一回の愛知外相とマイヤ(駐日米大使)、大河原前外務省アメリカ局長(現駐米公使)とスナイダー駐日公使の会談を軸に進められ、昨年から問題点ごとの本格的な折衝にはいり⑨た。そして今月初めまでに施政権の返還、協定適用地域、日米間の条約・協定の本土並み適用など協定の基本的事項について合意、協定の骨格がかなり固まった。

政府としては、沖繩返還協定を奄美、小笠原協定と同様、簡素なものとするともに、基本原則は先例に従う方針である。これは条約体系の一貫性を守るとの配慮に基づくものである。

(続) 169

1745

△共A230政6-1③

◎基地

協定項目のうち、重点となつていた「米軍に提供する基地」については①奄美、小笠原のように既設施設を協定上具体的に明記する  
②協定上には原則だけを記す③提供基地名を別表として付す④提供方式があるが、沖縄協定では「安保条約第六条に基づく地位協定の定める手続きによる」との原則を盛り込むことになろう。

具体的にどの基地を提供するかは、地位協定第二条の規定により合同委員会を開き、決定することになる。

現在、在沖米軍が使用している基地は、約百三十といわれているが、政府筋によると、返還後もその八割以上を米軍が引き続き使用し、その後、段階的に日本に返還されるものとみられる。

(註) 27

1750

△共A231政6-1④完

◎基地

したがって提供基地全部を協定に盛り込み、基地返還のたびに審き直すよりも、原則を協定に盛り込み、具体的な提供基地の決定を合同委にゆだねる方式(現在、本土で行なわれている)の方が、協定運用は合理的とされている。

また軍用地については、現在、琉球政府が個々の地主と契約し、米軍に貸与する形をとっているが、返還後は、日本政府が琉球政府に代わって地主と個々に再契約し、米軍に貸与する形をとる方針である。しかし米軍に一方的に接収された地主のなかには、再契約を拒否するものも予想され、協定項目ではないが、復旧事務の実態面で土地問題が最大の難問となりそうである。

(了) 103

1763



配 布 先

大臣、次官、外審、官房長、清長

（林、宇保）

④ 25 \* 沖繩返還協定の最終協議開始

「スナイダー公使十七日は帰任」（508頁）

ワシントン十一日時事通信員 沖繩返還協

定の最終協議のため一時帰国したスナイダー

駐日公使は十一日カシワシントンで国務省幹

部をばじめ、ホワイトハウス、国防省、

財務省、商多省等との交渉を開始した。同

公使は十七日に帰任する予定だが、この間に

米側の協定案についての最後の態度が固まり、

いよいよ東京での交渉は最終的な詰めにはい

3/

スナイダー公使が打ち合わせを予定してい

るのは、国務省のジョンソン次官、グリーン

次官補をはじめとする日本問題担当幹部のほ

か、ホワイトハウスではキッシンジャー大統

領補佐官ら、国家安全保障会議のメンバー、

国防省、財務省、商多省の幹部である。

2) 協定の内容はいつまで明くかにされるのか  
二九の款から三十一の款まで使か

(一) 協定案を「協定」とするか、「条約」と  
するか、(二) 沖繩基地の整理縮小を協定案  
の中に盛り込むか、あるいは協定以外の条項  
公文の中に盛り込むか、(三) 沖繩の米軍資産の  
全額に付する米側の最終的な見解を考慮す  
める、(四) 沖繩の外交の取り扱いについて米政  
府の「利益保護」の方針をどう表現するか  
などを中心に話し合うものとみられている。

國が、国防両省の返還協定案の取り扱  
い内容に關する意見の交換は、いんぱんに行  
なれたというが、今回のスナイプー公使との  
協定のまこと両省は最終的な米側案を伝  
し、ニクソン大統領に提出するものになっ  
ている。大統領と一二月にはおとついでに協  
定が、条約の決定は三月末か三月初め  
まに下し、米軍を返還する協定が、協定  
り、四月に両省の協定と一二月に協定  
あり。

【一】

アメリカ局長  
参事官  
北米第一課長

Handwritten initials and marks.

時事通信速報

政界メモ

26-17.04

▽ 沖繩返還協定の作成交渉はスナ  
イダ駐日米公使がワシントンの指示を持つ  
て東京に戻ったことからいよいよ大詰めを迎  
えたが、この大事件の時期に委員会の審議で  
防衛庁の国令にめぐりつけられるため固つ  
たのが外務省。そこで要知外相は「根拠外  
交」といつ新案を考案、国会から外務省に  
戻つてひと息入れるやいそかに審議期間を脱出  
都府のホテルなどに移つてマイヤト駐日大使  
らと協定交渉を始めた。まんまとマスコミ  
の目をそらして重要協定を結んだ要知外  
相。この日の記者会見でこの「練成作戦」  
を明かした。行かう「歴史は夜つくられる」  
です。からゆいしと今もツピリ得意そう。だ  
が交渉の中身を聞かぬやう「新味はあり  
きやん」ととたんに「いつもの外相」旨す変わり。

Handwritten marks on the left margin.





2 上院百人の沖縄返還協定に対する態度はど  
うなるか不明だが、フルブライト議員の考え  
方が日本側に好意的だったのと、日本側でも  
めついた繊維問題が解決のまじしをみせてい  
るところから、繊維と、沖縄が複雑にか  
らみ合う事態は避けらるるのではないかとみ  
られている。

ただ繊維問題がいまの方向でかたづけられ  
し米米界の強い不満は残り、サーモンと上  
院議員(共和党・サウスカロライナ州)、タ  
ルマッジ上院議員(民主党・ジョージア州)  
らが業者の意向を代表し、このように言  
するかわからないので、大使館筋はまだ樂觀  
を許さないとし、政府には厚な三分の二の  
協賛を必要とする意向である。――

アメリカ局長  
参事官  
北米才一課長

配 布 先

大臣、次官、外密、官房長、情長

米北米、米北米、米北米

三〇一〇 米側が米内務省説明

政

大詰めを迎えた米側返還協定作成の日本交渉は二十六日始まり、吉野外務省アメリカ局長とスナイダー駐日公使は同日、外務省で約一時間米に山たり合議した。

スナイダー公使は返還協定について本國政府と打ち合わせのため一時帰国し、二十二日帰任したばかりで、この日の合議で、返還協定の柱となる米資産の買取り、対米請求権基地の縮小、米国内の空気を含めなから全般的に、米側の考之方を説明した。また、返還協定の形式について、スナイダー公使は米側としては条約方式に傾いていることをお知らせした。外務省はこの日の米側説明をもとに、さらに閣内閣で、日本側の態度を検討して次の合議をいつ開くか決みたいとしている。

またこの日の合議で、二カ月近く開かぬことがった愛知外相とマイヤー駐日大使の定例会議を来週後半にも開き、山まで急ぎ進めようとする意向を協議することを決めた。(了)

(北米二報 26100  
23)

配 希 亮  
大庭、次官、外務、宮房長、精長  
(藤原、中條、藤原)

AP151  
OKINAWA

BY SPENCER DAVIS

WASHINGTON, MARCH 15 (AP)--THE NIXON ADMINISTRATION HAS DECIDED TO SEEK THE ADVICE AND CONSENT OF THE UNITED STATES SENATE FOR THE RETURN OF OKINAWA TO JAPAN'S SOVEREIGNTY IN 1972.

U.S. OFFICIALS MAKING THIS KNOWN TUESDAY SAY SENATOR J. W. FULBRIGHT, CHAIRMAN OF THE FOREIGN RELATIONS COMMITTEE, AND THE GOVERNMENT OF JAPAN HAVE BEEN INFORMED OF THE DECISION TO TREAT THE REVERSION TO JAPAN AS A REVISION OF THE SAN FRANCISCO PEACE TREATY OF 1951.

THIS MEANT THAT THE OKINAWA QUESTION WOULD NOT FACE BOTTLING UP BY THE SENATE FOREIGN RELATIONS COMMITTEE, BUT WILL INEVITABLY BE EXPOSED TO A GAUNTLET OF FIRE FROM TEXTILE-MINDED SOUTHERN SENATORS.

A TWO-THIRDS MAJORITY VOTE IS REQUIRED FOR SENATE RATIFICATION. THE ALTERNATIVE WOULD HAVE BEEN AN EXECUTIVE AGREEMENT BETWEEN PRESIDENT NIXON AND PRIME MINISTER EISAKU SATO FOR THE RETURN OF SOVEREIGNTY OVER THE U.S. PACIFIC FORTRESS TO ITS PRE-WORLD II OWNER. THIS, HOWEVER, WOULD REQUIRE A JOINT RESOLUTION WHICH WOULD NEED AT LEAST A SIMPLE MAJORITY VOTE IN BOTH THE HOUSE OF REPRESENTATIVES AND THE SENATE TO BE ENACTED. SOME OFFICIALS SAID THEY THOUGHT THE CHANCES WERE NOT AS GOOD FOR A BETTER THAN 50 PER CENT VOTE IN THE HOUSE AS FOR A TWO-THIRDS VOTE IN THE SENATE.

PRESIDENT NIXON AND PRIME MINISTER SATO DECIDED IN NOVEMBER, 1969, THAT OKINAWA WOULD BE RETURNED TO JAPANESE RULE IN 1972. THE UNITED STATES WILL CONTINUE TO OPERATE ITS GIANT MILITARY AND AIR BASE COMPLEX THERE AFTER REVERSION, BUT SUBJECT TO THE SAME RULES AS PREVAIL IN THE REST OF JAPAN. THIS MEANS THAT NUCLEAR WEAPONS WILL NOT BE STORED ON OKINAWA WITHOUT THE SPECIFIC CONSENT OF THE JAPANESE GOVERNMENT--AND THAT IS NOT A POLITICAL LIKELIHOOD. STATE DEPARTMENT OFFICIALS RECOMMENDED THAT THE OKINAWA QUESTION BE TREATED AS A FORMAL TREATY REVISION, RATHER THAN UNDER THE LOOSER EXECUTIVE AGREEMENT FORM.

3/15

本例187=235  
→ 235

THE TWO GOVERNMENTS HAVE BEEN WORKING OUT THE COMPLICATED PROCEDURES FOR RETURN. A DRAFT TREATY IS EXPECTED TO BE COMPLETED BY MAY, OR POSSIBLY JUNE IF DELAYED AND THEN INITIALED BY THE TWO GOVERNMENTS. THIS WILL PERMIT TIME FOR THE TREATY TO RECEIVE RATIFICATION BY THE JAPANESE DIET AND THE U.S. SENATE.

THE PROSPECT THAT THE CONTROVERSIAL ISSUE OF JAPANESE TEXTILE EXPORTS TO THE UNITED STATES WILL SURFACE DURING THE OKINAWA DEBATE, BOTH IN THE SENATE FOREIGN RELATIONS COMMITTEE AND THE FLOOR OF THE HOUSE, IS RECOGNIZED BY U.S. OFFICIALS. BUT THE LIKELIHOOD THAT IT WOULD BE SUBJECT TO A "FILIBUSTER" (DELAYING DEBATE) BY SOUTHERN SENATORS IS DISCOUNTED.

B. SPONG JR., DEMOCRAT-VIRGINIA, HAS A TEXTILE INDUSTRY IN HIS STATE AND WOULD BE A SPOKESMAN FOR TEXTILE INTERESTS. BUT THE 16-MEMBER COMMITTEE HEADED BY FULBRIGHT IS EXPECTED TO BE FAVORABLY DISPOSED AND TO SEND THE MEASURE TO THE SENATE FLOOR FOR RATIFICATION.

ON THE SENATE FLOOR IT WOULD BE SUBJECT TO HEATED DEBATE, BUT NIXON OFFICIALS ARE CONFIDENT OF ITS PASSAGE, THEY SAY.

1411HT

共A / / 国政3

アメリカ局長  
参事官  
北米才一課長

◎沖繩協定、五月調印に努力中  
保利官房長官語る

保利官房長官は二十二日正午の記者会見で沖繩返還交渉の進行状況について「まだ調印の時期の見通しなどつかない段階で、五月中には調印したいと努力中である」と次のように語った。

返還協定調印の時期が問題にな  
◎ているが、V O A など本格的な折衝が進行中の問題もあり、「元通しはついていない。この種のこと  
は遅れこそすれ、早まることばないもので、いまのところ政府部内では五月中には調印したいという点で一致しているだけだ。

(丁)

アメリカ局長  
参事官  
北米才一課長

木保  
保  
保

△共A / / 3 国政 /  
◎沖繩協定の中間報告を要求  
社会党国対委

社会党は十七日の国対委で、沖繩返還協定のこれまでの折衝経過について、政府に中間報告を求めるとの方針を決めた。政府自民党がこれに応じない場合は、本会派での緊急質問を考えている。時期は四月下旬から五月上旬の過ぎな時期を予定してゐる。

(丁) 46 3 17 11 57



2オニ段階の「撤回し」を踏えた。大使館に  
よると、いわゆるハト派議員のほとんどは協  
定案の審議にきやめて好意的だといわれる。

大使館としては、オニ段階の「上院工作」  
として、タカ派議員の撤回しを今後開始す  
る予定だが、沖縄の米資産返還、米企業の本  
益保護などのあつかい問題で、ある程度米  
側の満足するような解決が得られれば、上院  
の審議は円滑に進むものと楽観している。

しかし、米企業の本益保護については沖縄  
現地から代表がきて、上院議員や政府当局者  
に強い働きかけをした点でもあるので、大  
使館側もこの点に若干の不満を抱いているま  
うだ。また繊維交渉のレトリックが残って、  
返還交渉の審議に悪影響を及ぼさないかとの懸  
念もあるが、大使館当局は繊維と返還協定に  
直接の関係はないだろうとみている。――



予力局長

参事  
北米第一課長

配希先

大臣、次官、外務、官房長、情長

(並案) 安

(並案) 安

2245: ISLAND: WASHINGTON, MARCH 15, REUTER-U.S. OFFICIALS SAID TODAY THEY HOPED THAT FINAL AGREEMENT FOR THE RETURN OF OKINAWA TO JAPAN IN 1972 CAN BE WORKED OUT WITHIN THREE OR FOUR MONTHS.

THE STRATEGIC ISLAND, LARGEST IN THE RYUKYU CHAIN, WAS SEIZED BY THE UNITED STATES DURING ONE SECOND WORLD WAR AND TURNED INTO A BIG STRATEGIC BASE WHICH CURBS VITAL AIR AND SEA LINES IN THE PACIFIC AND PROVIDES SUPPORT FOR THE INDOCHINA WAR.

OFFICIALS SAID IT HAD BEEN DECIDED TO SUBMIT FINAL AGREEMENT TO THE U.S. SENATE FOR RATIFICATION LATER THIS YEAR OR EARLY NEXT YEAR.

AN AGREEMENT IN PRINCIPLE REACHED BY PRESIDENT NIXON AND JAPANESE PRIME MINISTER HISAKU SATO IN NOVEMBER, 1969, PROVIDED FOR CONTINUED U.S. OCCUPATION OF MILITARY BASES ON THE ISLAND AND DID NOT PROVOKE MORE THAN LIGHT OPPOSITION IN CONGRESS.  
MORE PA

2248: ISLAND 2 WASHINGTON:

OFFICIALS ANTICIPATED SENATE RATIFICATION OF THE MOVE ALTHOUGH IT WAS ASSUMED THAT MEMBERS REPRESENTING COTTON TEXTILE INTERESTS IN THE SOUTH WORLD TRY TO LINK THE REVERSION OF OKINAWA WITH AN AGREEMENT STRICTLY LIMITING JAPANESE TEXTILE EXPORTS TO THE UNITED STATES.

THE OFFICIALS NOTED PRESIDENT NIXON'S DISPLEASURE WITH THE JAPANESE TEXTILE INDUSTRY'S RECENT UNILATERAL OFFER TO CURB EXPORTS HERE, BUT THEY SAID IT WAS THE ADMINISTRATION'S INTENTION TO TREAT OKINAWA AND THE TEXTILES DISPUTE AS SEPARATE ISSUES.

REUTER (TG)

UPI-127

TEXT 3-17

WITH ROGERS

米米 7 米北 2 米 7

アメリカ局長

参事官

北米第一課長

WASHINGTON MARCH 16 (UPI)--FOLLOWING IS THE OFFICIAL TEXT OF THE REMARKS U.S. SECRETARY OF STATE WILLIAM P. ROGERS MADE IN HIS NEWS CONFERENCE TODAY CONCERNING THE TEXTILE DISPUTE WITH JAPAN:

QUESTION: MR. SECRETARY, SIR, WE APPEAR UNABLE TO MAKE ANY AGREEMENTS OR REACH AN AGREEMENT WITH THE JAPANESE ON THE VERY CONTROVERSIAL TEXTILE PROBLEM. WILL THIS FAILURE TO REACH AN AGREEMENT CAUSE ANY DELAY IN THE RETURN OF OKINAWA, AND HOW IN LIGHT OF THE CIRCUMSTANCES OF THE LAST FEW WEEKS, DO YOU THINK WE CAN GET THESE TALKS GOING AGAIN?

ANSWER: THE TEXTILE MATTER HAS BEEN A DIFFICULT MATTER FOR THE UNITED STATES AND I AM SURE FOR JAPAN. WE REGRET THAT THE NEGOTIATIONS THAT THE PRESIDENT WORKED OUT WITH PRIME MINISTER SATO DID NOT CULMINATE IN A SUCCESSFUL AGREEMENT. WE HOPE THAT IT WILL NOT IMPAIR OUR BASIC RELATIONS. THE RELATIONS BETWEEN THE UNITED STATES AND JAPAN ARE EXCELLENT. IT OBVIOUSLY IS A MATTER OF CONCERN. THE PRESIDENT EXPRESSED THE VIEW OF OUR GOVERNMENT IN THE STATEMENT HE PUT OUT THE OTHER DAY.

YOU HAVE TO KEEP IN MIND THAT JAPAN IS STILL OUR LARGEST OVERSEAS TRADING PARTNER, AND WE ARE THEIR LARGEST OVERSEAS TRADING PARTNER. AND WHEN YOU HAVE THAT AMOUNT OF TRADE, YOU ARE BOUND TO HAVE SOME DIFFERENCES. WE HOPE THAT THOSE DIFFERENCES CAN BE IRONED OUT. WE HOPE THAT THE NEGOTIATIONS ON TEXTILES WILL CONTINUE AS THE PRESIDENT SUGGESTED HE HOPED THEY WOULD.

NOW, AS FAR AS OKINAWA IS CONCERNED, I DON'T BELIEVE THAT THE TEXTILE MATTER WILL HAVE ANY DETRIMENTAL EFFECT ON THE NEGOTIATIONS ABOUT OKINAWA. AND I WOULD HOPE THAT THE OKINAWA REVERSION WILL TAKE PLACE ON SCHEDULE.

(END TEXT)

AL/8:52A/NHA 171

Handwritten notes and signatures on the right side of the page, including a large 'K' and some illegible characters.

共A80政3

◎一日に愛知・マイヤー会談

沖縄返還協定作り促進目ざす

愛知外相は三十日閣議後の記者会見で『沖縄返還を協議するため』のとし初めての愛知（外相）・マイヤー（駐日米大使）会談を四月一日午後四時から開く』と発表した。

沖縄返還協定作成のための日米両政府間の折衝は五月調印をメドに続けられているが、基地の扱い、米資産の引き継ぎなどの問題点で両国間の意見が対立、大詰めで難航している。このため、外務省は国会が自然休会にはい⑨たのに伴い、一日の愛知・マイヤー会談を機に精力的に話し合いを詰め、早期妥結にこぎつけたいとしてくる。

45 3 2012 07 (5)

アメリカ局長

参事官

北米局長

配布先

大臣 次官 外務 官房長 情報

時事通信社

ニタ◎一日、愛知・マイヤー会談再開

② 沖繩協定、米系企業利益を合意へ

愛知外相は四月一日午後四時から外務省でマイヤー駐日米大使と会談、沖繩返還に関する定期協定を再開するまでに三十日内定した。これにより協定作成交渉はよりよ大詰め段階を向える。一日の会談では米系企業利益の保証について合意する予定だが、協定初印の日取りなどについては話し合われるものとみられる。

これらより日米折衝で返還協定の向然点の整理は終り、裁判の効力など一部の協定案文の作成にはいった。しかし米側資産の有償引き継ぎ、対米請求などの財政・金融問題と、米軍基地の整理縮小の二点で双方の主張は大きく食い違ひをみせ、政治判断を迫られる情勢となつてゐる。このため愛知外相は「五月初旬」に固に合はせられたにも、これらの問題については、四月中旬に日米間で合意する、ことを目標に、マイヤー大使との政治折衝を再開することにしたもの。同外相は近く財務当局者をワシントンに派遣、資産引き継ぎ問題に関する最後の折衝を行なはせ、一方、東京交

渉が基地問題を重点的に解決をはかる方針である。

(三)

30-12.33

46.3



アメリカ局長

参事官

北米水

共A23外6 ②完①

◎ 織維を沖繩返還にからます

米上院議員が舞台裏工作

「ワシントン二十九日共同」米

議会訪が二十九日明らかにしたと

ころによると、上院のホリングス

、ロング民主党議員、サーモンド

共和党議員ら南部の織維議員は、

日米織維問題を沖繩返還協定にか

らませる工作について、舞台裏の

偽議を始めた。

南部織維上院議員は、沖繩返還

協定の議案の批准承認にさいし、

どのような工作をするかまだ具体

的な決定に達していないが、議案

の提出されたさい、フ①リバスタ

ー(議事妨害)による審議引き延

ばしを演説しているといわれる。

ただし議会訪は①南部織維議員の

間でもホリングス議員とサーモン

ド議員が対立するなど、必ずしも

足並みがそろっていない②上院の

批准承認に必要な三分の二以上の

支持はほぼ確実なことから、結果

は単なる「いやがらせ」に終わろ

うと楽観的な見通しをもっている

・(徳)

共A24外6①②完

◎ 織維

しかし、日本の織維自主規制を

不満として、これを沖繩返還協定

にからませようとしている上院議

員は、すでに十数人上②ている

といわれ、今後これら議員に同調

するものがふえれば「台風の目」

になる恐れもある。

米国務省は沖繩返還協定の議案の

批准承認をことし中に完了する

ため、五月中に協定批准案を上

院に提出する必要があると判断し

ている。しかし、上院本会議の審

議は外交委員会の公聴会のもとに

なるので、時間的には七月の日本

の自主規制実施時期と重なりそ

う。このため議会訪は、日本が実

施条件としている極東三カ国の自

主規制「同時発車」が、成功する

かどうかは南部議員の「レジスタ

ンス」の成否のカギになるとみて

了)

アメリカ局長

参事

北米課長

配布先

大臣、次官、外審、官房長、情長

局長殿

本件は、ワシントンに於いて申合せたこと、その方向が如何なるか、知らず、予には何の連絡もありません。また、その方向が如何なるか、予には何の連絡もありません。また、その方向が如何なるか、予には何の連絡もありません。

② 米、沖繩返還協定の最終協議

③ 「ワシントン二十三日特使訪問」米政府は、マツケーン太平洋軍司令官ランパート琉球島視察を、カーチス提督、スティーブソン駐日公使と日本・沖繩関係担当の首脳部を呼んで、基地問題を中心とした沖繩返還協定案の最終的な検討を開始した。

二六、首脳は現在、肉休者省とそれを各個別に協議しているが、ロンドンと東京における返還協定案の交渉は急速に政治折衝に入つて行くものとみられる。ランパート高等参事官とスティーブソン提督は十一日夜、ワシントンに到着した。また、マツケーン司令官やホワイットハウスや財務省とも含む多岐にわたる検討が開始された。

2)

協定の内容は不明だが、日米間では返還後、米の基地の取り扱い、米資産の買取り、対米請求権の処理、裁判権の移行、米企業への保護、米米民間航空会社の取り扱い、VOA（ボイス・オブ・アメリカ）施設の存続など、主要項目の事務的に向合点を着つてきた。また、米側の意向は、この返還協定と一連の最終協定を改めて検討する必要があるとみられる。



とくに今回の顔ぶれには軍閥関係が多いと  
ころから、返還後の基地のあり方について陸  
海空三軍の立場から総合的な話し合いが進  
められているのは確実視されている。

東京交渉は終わったあとの調印の日取りが  
いつになるかは未定だが、米政府側には「あ  
と六週間」のうちに日米両方の交渉が完了  
し、返還の決定がなされるものと見られてい  
る。米側は「五月十一日」から「五月十二日」  
の調印を予定している。米側は「五月十二日」  
の意味からいって、今回の米国の交渉は断片的  
にかなり進展があるはずと見て、「五月十二日」

アメリカ局長  
参事官  
北米第一課

共同通信速報

△共A32国政ノ

◎返還交渉テンが遅れる

愛知外相語る

長約  
録  
録

愛知外相は十三日の閣議後の記者会見で、沖繩返還交渉について「交渉のテンは多少遅れている。今国会の会期末までには国会に中間報告が出来る」ところまで対米交渉をつめたい」と次のように語った。

配布先

長官、次官、外務、官房長、情

一、日米交渉は細部交渉の段階にはいり、現在は米側が考案をまとめるため本國に請訓しているところだ。したがって次の愛知・マイヤー会議が開かれる時期は深淵次第だ。

一、一時、五月早々の調印説が伝えられたが、ホームはこれより遅れている。いまの段階では国会への中間報告はまだ出来ず、会期末までには中間報告が出来るところまで対米交渉をつめたい。

(了)

53 JUN 4 65

アメリカ局長  
参事  
北米才一課長

配布先 (報) (経長) 海外公報長  
大臣、次官、外務、官房長、情長

① 29 ◎ 対日不信感の除去に對策必要  
在米公館長会議終る

「ワシントン二十一日、二十二日時事特報」在米公館長会議は二十一日、二十二日の両日当地の駐米大使館で開かれ、日米貿易経済問題を中心に意見を交換した。同会議には大使館側から牛場大使、関係者と東京から安里外務一審官、吉野アメリカ局長、和野情文局長、平原経済局長、近藤大蔵省銀行局長、山下通産省通商局長、官場至企行國民政策局長らが参加したが、日米関係が予想以上に緊迫化していることと改めて認識するとともに、今後は恐ろしい不信感解消のための対策が必要であることを認識した。

とくに先に政府が打ち出した八項目の対策を出来るだけ早く実施すること意見が一致したが、日本に対する幾つたイメージをめぐり方象が痛感され、二十三日には在米日本側各報関係者をも集めて意見を述べることになった。和野情文局長はPRのためには争奪も必要だが、官民協力のPR作戦の緊要性を強調していた。

会議参加者はこのあと二十四、二十五の両日ニューヨークで全米の日米貿易関係者を集

(45行)

6.6.22

一、日本の日本国民貿易経済合同会が、その南くこと  
になつてゐる。安リ外務省の官は会務後記者  
会見、次のように述べた。

一、「八項目」はまだ終論段階なので、各  
論を出来るだけ発表したものにしなければなら  
ない。同対象を實施しても日本貿易の不埒  
は是正されなへかもしれないが、相互主義  
の欠如が不信感の原因なので、終日不信感は  
少なくなると思ふ。

一、日本業界の対米繊維輸出自主規制は米  
側の幼稚いくものでないかもしれないが、同  
自主規制が實施されれば、形はともあれ、美  
債協には米側の希望に近い結果が現われると  
思ふ。

(了)

共A58外22 ②完①

◎八項目の早急実施が重要  
在米公館長会議で結論

【ワシントン二十二日共同】本年度の在米公館長会議は二十一、二十二両日、ワシントンの日本大使館で開かれ、最近、急激に悪化してきた日米経済関係を中心に討議した。この結果、日米経済関係の改善をはかることが「緊急必要」であることで意見が一致した。

そのための具体策として①さきに政府が決定した自由化計画八項目を出来るだけ充実した内容にし、すみやかな実施に移すことが重要である②同時に米国の対日批判には、誤解もあるもので、日米間の感情的な対立に発展することを回避するために、米国における広報活動を充実する一との意見を決めた。

46.6.22

広報活動の強化については、二十三日夕方まで午場大使を議長に、在米総領事、領事、それに米国人広報担当関係者による合同会議を開き、意見を聴取したうえ、既存の在米広報機関の協力体制による広報活動計画の具体案をまとめる予定である。

今回の在米公館長会議は、本省から外務省の安川善隆、吉野アメリカ局長、和田情報局長、平原経済局長のほか、山下通産省通商局長、近藤大蔵省銀行局長、官商経済企画庁国民生活局長が、また全米各地の総領事、領事十人が参加して開かれた。

今回の公館長会議は、十七、十八両日、ワシントンで開かれた日米財界人会議のあとをうけて、政府の立場から日米経済関係の問題点を分析した。二日間にあたる討議では、対日批判の直接原因が①繊維自主規制をめぐる摩擦②日米貿易の不均衡③日本の外貨過剰の急増の三点にあることを確認し、会議では政府の自由化計画入項目の実施が、直ちに貿易不均衡の解消につながらないことを認めながらも、同計画のすみやかな実施が対日批判をやわらげるうえで効果があると判断し、同時に米国内の頃④対日批判を除去するため、広報活動の強化方針を固めたものである。しかし広報活動については予算の大幅増額が期待薄のため、今後経団連など、民間業界の協力を要請する意向である。

政府は牛場大使主催により、二十四、二十五両日、ニューヨークで日本商社、メーカー代表約六十人を集めて官民合同会議を開き、日米経済関係の打開策を協議することになった。

(丁) 46 6 23 11 16



アメリカ局長

参事官

北米

共同通信誌

共A26/政10(75)④完①

メモ④

◎基地整理、後点検も要望か

日米国防関係、長期展望協議

共A262政10-②

◎基地

ア長

長約

米長 沖米

レアード米国防長官は七月四日

政府公賓として来日、佐藤首相、

中曾根防衛庁長官ら政府首脳と会

談する。米国防長官の初の来日は

昨年九月訪米した中曾根長官

の要請にこたえたもので、事実上

日米国防関係の定期協議がス

タートすることを意味する。特に

今回の来日は、沖繩返還協定調印

直後であり、沖繩返還後の長期展

望に立った極東防衛のあり方や、

日米安全保障問題などを中心に突

つ込んだ意見交換が行なわれるも

のとみられる。

一方、二十九日にはことし初の

日米安保協議委員会の開催が予定

されており、これら一連の日米会

議は今後のわが国防衛体制の方向

を示すものになる。

(読) 113

国防長官一行は十一日まで滞在

、その間の正式日程はきつた決ま

っていないが、五日佐藤首相、院

知外相を表敬訪問し、中曾根長官

と会談する見通しである。もし五

日ごろ内閣改造が行なわれたら、

レアード長官が六日北緯道の自衛

隊基地を視察したあと、新防衛庁

長官と会談することになる。

政府首脳との会談では、ヒュッソ

ン、ドクトリンによつて、パタナ

ム、韓国、日本など極東からの米

軍撤退が進展、一方で沖繩の返還

協定調印によつて、自衛隊による

沖繩防衛体制の整備が進むこと、

伴う極東防衛のあり方や日米安全

保障問題が中心的な議題となる。

のとみられる。

(読) 22 17

先 布 配

長房官、外審、次官、大臣

(読) 113



△共A263政10-③

◎基地

特に米側は極東米軍の撤退に伴  
S、アジア諸國の防衛力の強化を  
期待、わが國に對しても自主防衛  
力の整備拡充を要請するものとみ  
られる。これに對し日本側は、返  
還後の沖縄防衛力整備計画を提示  
、来年度からスタートする第四  
次防衛力整備計画の防衛庁原案を  
説明、わが國の自主的な防衛努力  
を強調する考えである。

また、返還後の沖縄米軍基地の  
整理統合と核の総点検問題を提起  
、今後の検討課題として継続協  
議を要望する意向だ。沖縄基地の  
整理統合問題については、返還協  
定に關連した了解覚を書き、米  
軍基地八十八カ所の継続提供が決  
まされた。しかし同筋は、沖縄の住  
民感情を少しでも緩和し、長期的  
に基地機能を維持するためにも、  
現在の基地機能を低下させないで  
米軍基地を整理統合することは可  
能だ一と判断、問題提起する。

(統) 12 11

△共A264政10-④完

◎基地

核の総点検については、米側は  
米国防務省と國務省が沖縄の核  
プログラムなどへ移送するようホ  
イトハウスに勧告したとの報道  
あり、沖縄の住民感情も考慮し  
、米側に協力を強く要請、実現  
を期したい考えだ。

一方、二十九日外務省で開かれ  
る日米安保協議委員会では、野  
外相、中曾根防衛庁長官、マイヤ  
ー駐日米大使、マイケン米大平  
洋軍総司令官が出席、これまで兩  
國の事務レベルで進められた沖  
返後の米軍基地の一時的な維持  
、自衛隊の沖縄防衛計画を正  
規として確認し、今後の沖縄防  
衛問題について意見を交換する事  
定だ。

(丁) 11 5 1 p. 8

△共A235政4(60)③完①

(メモ12)(沖縄注意)

◎返還努力、明記の方向

沖縄基地、覚え書きか声明に

【編注】(△)は①だけ

米の覚  
考  
米北12

外務省筋が十五日明らかにした

ところによると、沖縄返還交渉の

最大の二つにな◎ている施設・区

域(基地)の扱いらつして、日米

双方は返還協定調印時に「復帰後

も、米側は沖縄基地を極力日本側

に返還するよう努力する」とい◎

た趣旨を盛り込んだ声明、または

覚え書きを発表する方向で作業を

進めている。

米側

米側

これは、施政権返還(本土復帰

)時に那覇空港などいくつかの

基地の同時返還を、と主張する日

本側に対し、米側の態度がきわめ

てきびしいため、このような「約

束」をすることに◎て将来の米

軍基地返還の方向を明らかにしよ

うとするものである。

日本側は、出来ればこの「約束

」の中に具体的返還予定期日

を明記したい考えだが、米側は固

際情勢が流動的であることを理由

に難色を示しているといわれる。

(続) 9.11

(△)はここまで

Y-スにの王 格道に過い  
訓在中

アメリカ局長

参事官

北米第一課長

配布先

大臣、次官、外審、官房長、情長

米長  
北米

経長  
総務

時事通信社

520 原水禁發表は想像—沖繩の核

「富山」参院遊説のため富山入りした佐藤首相は二十四日午後、同市公会堂で記者会見し、原水禁が発表された沖繩の核存在について「外国人が軍隊の中を調査することは考えられず、想像だけのものと思う。返還の際は核抜き本土並みになることは間違いない」と述べた。そのほか内閣改造、円切り上げ問題などについて次のように語った。

一、内閣改造は韓国訪問後かとの意向に  
そのまゝでは考えていない。(参院遊説の結果と党三役の処遇との関係について) 党員なら党の功績で考へるべきで、参院遊説の功罪も考へないといけなう。あまり直接の向惑にふれず長い目でみた方がよい。

一、円切り上げ問題について七十億ドル程の外貨準備高では、円切り上げをする前に、社会福祉の充実などの先行投資をやる必要がある。このうちとくに下水道の整備は急速を要する。

一、無過失賠償責任法は、次期国会に提出を約束しており、中身が問題だが、提出は間違いない。

一、北回り新幹線はさらに調査してから決断を下す必要がある。年内に敷設するとはいい切れない。

(三)

◎沖繩以後の日米関係に懸念  
参院選、米外交観測筋

長手  
長手  
2

【ワシントン二十八日竹内共同  
特派員】参院選開票結果は、時差  
の関係でワシントンには日曜日の  
二十七日夜伝えられたため、米政  
府関係当局の公式反応は直ちに得  
られない。しかし、ワシントンの  
日本政治情勢に通じている外交観  
測筋は、七十議席確保を目ざした  
自民党が伸び悩んで、代わりに社  
会、共産など野党勢力が予想以上  
の進出を遂げつつあることに重大  
関心を寄せ、これが『沖繩以後』  
の日米関係に与える影響およびそ  
れと不可分の関連性を持つ佐藤内  
閣ののちにきたるべき日本の政治  
体制の動向を、注意深く見守りて  
くる。

46.6.28

共A / / 7外14 | ②完

◎沖繩

参院選挙については、米国では一般的に関心度が低いのがこれまでの例であるが、今回は①日米間で最大の懸案である②沖繩返還協定調印後に行なわれた③日米経済関係が対立的競争関係にはいるさに行なわれた④二カ月前の地方選挙で示された革新支持票の増加がどの程度反映されるか注目されていたなどの理由から、日米関係に直接関連をもたない経済界、言論界の間でも関心が高まっていた。

その意味では『与党の頭打ち、野党の予想以上の進出』は、今後の日本の政治のあり方、特に日米関係の将来にきわめて微妙な影響を与えざるをえないだろう、と観測するむきがワシントンでは少なくない。

(丁)

共B506外4

○二十八日ソウル入り

米副大統領、十カ国歴訪へ

【エルトロ（米カリフォルニア

州）二十七日ロアノイ共同】アグ

ニ①米副大統領は二十七日、韓

国、シンガポール、クワ②ドト、

サウジアラビア、エチオピア、ケ

ニア、コンゴ（キンシ③）、ス

ーデン、モロ④コ、ポルトガルの

十カ国歴訪のため、エルトロの海

兵隊航空基地を出発した。

同副大統領はグアムに一泊後、

二十八日ソウルに到着、七月一日

韓国〇朴大統領就任式に出席、韓

国首脳と会談する。

報長 (ア長 北米)

先 市長 市長

ニ 36 〇 返還協定に「イエス」 28-13.40

(外)

「革新陣営はニヨック」

（那覇朝二十八日時事）「返還協定の評価が同様の沖縄では、稲嶺一郎氏（自民、現）が革新統一候補の金城睦氏を引き寄せ、当選を決めた。これで返還協定に対する住民の反応は、「イエス」とまた形となった。

しかし送挙戦の実態は返還協定が争点を示したから、沖縄で戦後最良の投票率を示すように、盛り上がりにつけ、一般有権者の関心は予想外に冷かかったといえる。

むしろ、稲嶺氏の勝因は現職の強みのほか、

送挙戦のスタートがよかったことにある。

稲嶺氏は当選が確実となった二十八日午後、返還協定そのものよりも復帰対策を争点に訴えた。今後は海洋博の開催に全力をあげた」と喜ぶかき語ったが、昨年十一月の国政参加送挙で下位当選となり、六カ月議員になっただけに、これでやっと本当の意味で参院議員になれたといった表情。

一方革新陣営にとつて、出足の遅れや候補者の知名度の低さがあったにしても「返還協定反対」と送挙スローガンの力にかかげて敗れたことは、大きなミソックだった。こ

れまで革新の統一目標だった本土復帰が協定の封印で落れ、昨年の国政参加送挙以来目立ってきた革新各党間のとくに割れも深まっつて、今般沖縄の革新運動は「折と誤迷の道さた」といふことになりそうだと。

46.6.28

配 布 先 (経長) (経長) (経長)  
大臣、次官、外審、官房長、情長 (改2) (代半) (代半)

参院選・海外反響 (2) 英国

28-10-31

① M 22 〇 「沖繩返還」も「公審」には勝てず

「ロンドン」ニ十七日時事特派員「英国は、参院選挙の地方区で社会党が善戦したことは、沖繩返還交渉がまとまった直後のことだけに意外と受け取っており、「公審防止」と「物価対策」の効果が出てこない限り、こうした傾向が続くのではないかとみている。先の都知事選挙で自民党が大敗したときにも、オクスフォード大学のストーリーリー教授など日本の事情に詳しい識者は「公審と物価上昇が自民党には大きなマイナスになった」と評していたが、沖繩返還も公審には勝てないのではないかとみえる向きが英国には多い。

しかし、参院選挙の結果がどう出ようと、日本の政治の基本路線にはほとんど変化はないというのが英国の識者の一致した見方であり、英国は参院選挙直後の内閣改選を「佐藤首相がたいを後継者として望んでいるかを初めて示すものとなるかもしれない」(フイナンシャル・タイムズ)として注目している。

(下)



アメリカ局長  
参事官  
北米才一課長

米保  
米保  
米保

配布先  
大臣、次官、外審、官房長、議長

米保  
米保  
米保

時事通信速報

6/29 録

① 沖繩防犯で取り決めた29日の日米安保条約  
 ② 返還後半年内に自衛隊三千二百人配置  
 ③ 日米両国政府は二十九日、日米安保条約改定  
 委員会を閉じ、復帰後の沖繩をめぐって協議す  
 るが、同委員会では自衛隊による沖繩防犯につ  
 いて「沖繩の直接防犯責任は日本国による  
 べき受許に關する取り決めに米側と取り結  
 ぶべきである。」  
 取り決めの内容は、すでに防犯庁が決定した  
 沖繩への自衛隊配置計画をほぼそのまま文  
 書にしたもので、①防犯任務は日本国による  
 べき受許は沖繩の返還の日後である。だが早  
 り日とし、一九七三年七月一日までに完了す  
 る。②返還後、六ヵ月以内に日本国は三千二百  
 人に近い数の各部隊を配置する。③陸上自  
 衛隊司令部一、普通科中隊二、航空隊一、  
 施設科中隊一、補給中隊一、その他④海上  
 自衛隊航空自衛隊司令部一、但真珠湾  
 の他⑤航空自衛隊司令部一、但真珠湾  
 航空隊一飛行隊、航空隊司令部管制部隊一、  
 航空基地隊一、その他⑥七三年七月一日  
 までに日本国は十ヶ師団(三個中隊)、亦  
 一師団(四個中隊)および陸上自衛隊三ヶ師団  
 による防犯の遂行と航空隊司令部管制部隊



果推紡切

共同通信速報

急共A86政6(50)③完①  
(メモ6のへ)(沖繩注意)

◎米軍基地防衛が主眼

【解説】

共A87政61②

◎解説

【解説】沖繩防衛に關する日米  
兩國政府の「取り決め」が二十六

日明らかになつた。「取り決め」

の内容は、返還後のわが国の沖繩

防衛計画を日米双方が文書で確認

したものだが、その性格は従来の

重要防衛拠点である沖繩の米軍基

地防衛の色彩が濃く、安保の変質

として今後国会などで激しい

論議を呼びそつた。

防衛庁筋は、米国側が沖繩返還

協定の議会批准を容易にする手だ

てとして、返還後の沖繩防衛体制

を事実上の「政府間協定」として

結ぶより強く要望し、日本側も防政

権が返還される以上、自衛隊が第

一義的防衛責任を負うのは当然で

あるとして、この取り決めに応ず

ることにした。其説明している。

(統) 172

しかし、現実に自衛隊が引き受

ける主要防衛機能は、ナイキ、ホ

ーク基地、F104迎撃戦闘機に

よる緊急迎撃待機態勢、レーダー

・サイトの運用など米軍基地そ

のものの防衛に当たる性格のもの

である。

特に沖繩返還協定の調印に伴う

沖繩の米軍基地はほとんど現状の

まま返還後も維持され、また特殊

部隊もほぼ現状のまま存続される

ことになり、この取り決め

により、米軍の防衛機能の一部肩

代わりを進めることが合意された

もので、沖繩国会などでも取り決

めの性格をめぐり、野党の追及を

浴びることになる。

(統) 12 19

急共A88 社613完

◎解説

一方、地元沖縄では、すでに豊良琉球政府主席が自衛隊の沖縄配備に反対する意向を表明しているほか、革新団体などが米軍基地の存続や自衛隊の肩代わりなどに強い不満を示している。この取決めが明らかになつたことにより、沖縄への自衛隊配備に反対する空気がいよいよ高まり、基地反対闘争を盛り上げるきかけともなりそうだ。

(了) 223

171D

◎ 沖繩返還韓国安全に響かぬ

佐藤・朴会談開く

【注】外差し替え

【ソウル】日小林共同特派員

朴正熙韓国大統領の就任式典に参列するため、一日午前、韓国入り

佐藤首相は、同日午前十一時

台北の大統領官邸に朴大統領を訪れ、約一時間二十分にわた

り沖繩返還問題、朝鮮統一問題、対中国政策などアジア問題について意見を交換するとともに、韓国に対する経済協力などについて話し合

した。席上、まず佐藤首相が沖繩返還協定が調印に至った経過と、協定のあらましについて詳細に説明し

先布記

「沖繩が返還されても、軍事技術の進歩などにより、韓国の安全に影響があるとは考えられないので、韓国側の理解を得たい」と述べ、朴大統領はこれに同意した。

続いて佐藤首相が今後の朝鮮統一の見通しについて見解をただしたのに対し、朴大統領は「北朝鮮が武力統一の考えを捨て、またそれについてわれわれが信頼するには、足る確証を得た場合、韓国としても朝鮮統一に進みたい考えである」と前向きな態度を示した。

中国問題については、朴大統領は「カナダが北京を承認して以来、北京を承認する国が十一カ国

にも及んでおり、近いうちに北京が国連に参加することは明らかである。しかし、台湾問題については、日本政府と同じように十分慎重に考える必要がある」と述べた。さらに個人的見解もまじえて「北京が武力解放の考え」や隣接諸国に対する膨張政策、間接侵略の意図を捨て、平和外交に徹する確証を示せば、将来米中、日中の国交正常化は期待できよう」との考えを明らかにした。

このあと韓国に対する経済協力に関連して、朴大統領からすでに話し合いがいつている地下鉄の建設に対する援助五千万ドルに、さらにプラスして新たに三千万ドルの借款の要請があった。

これに対し佐藤首相は前向きな検討を約束するとともに、八月の日韓定期閣僚会議で結論を出すことに同意した。

最後に朴大統領は、韓国の米の不足状況について説明、日本米二十万トンの緊急追加導入を要請した。佐藤首相は原則的に同意し、出来れば日韓定期閣僚会議前にも両国事務当局間で話し合いを煮詰めることになった。

この会談には日本側から木村官房副長官、金山駐韓大使、法眼外務審議官、韓国側から金鐘泌首相、金溶植外相らが同席した。

◎沖繩返還韓国安全に響かぬ

佐藤・朴会談開く

【注】外36差し替え

【ソウル一日小林共同特派員】  
朴正熙韓国大統領の就任式典に参

列するため、一日午前、韓国入り

した佐藤首相は、同日午前十一時

、青瓦台の大統領官邸に朴大統領

を助れ、約一時間二十分にわた

る対中国政策などアジア問題につい

て意見を交換するとともに、韓国

に対する経済協力などについて話

し合った。

席上、まず佐藤首相が沖繩返還

協定が調印に至った経過と、協定

のあらましについて詳細に説明し

「沖繩が返還されても、軍事技術

の進歩などにより、韓国の安全に

影響があるとは考えられないので

韓国側の理解を得たい」と述べ

た。朴大統領はこれに同意した。

続いて佐藤首相が今後の朝鮮統

一の見通しについて見解をただし

たのに対し、朴大統領は「北朝鮮

が武力統一の考えを捨て、またそ

れについてわれわれが信頼するに

足る確証を得た場合、韓国とし

ても朝鮮統一に進みたい考えであ

る」と前向きな態度を示した。

中国問題については、朴大統領

は「カナダが北京を承認して以来

、北京を承認する国が十一カ国

にも及んでおり、近いうちに北京

が国連に参加することは明らかで

ある。しかし、台湾問題について

は、日本政府と同じように十分慎重

に考える必要がある」と述べた。

さらに個人的見解もまじえて

「北京が武力解放の考え」や隣接

諸国に対する影響政策、間接侵略

の意図を捨て、平和外交に徹する

確証を示せば、将米米中、日中の

国交正常化は期待できよう」との

考えを明らかにした。

このあと韓国に対する経済協力

に関連して、朴大統領からすでに

話し合いがいつている地下鉄の建

設に対する援助五千万円に、さら

にプラスして新たに三千万円の借  
金の要請があった。  
これに対し佐藤首相は前向きな  
検討を約束するとともに、八月の  
日韓定期閣僚会議で結論を出すこ  
とに同意した。  
最後に朴大統領は、韓国の米の  
不足状況について説明、日本米二  
十万吨の緊急追加導入を要請した。  
佐藤首相は原則的に同意し、  
出来れば日韓定期閣僚会議前にも  
両国事務当局間で話し合いを急務  
めることになった。  
この会談には日本側から木村官  
房副長官、金山駐韓大使、法眼外  
務審議官、韓国側から金鐘泌首相  
、金溶植外相らが同席した。

アメリカ局長

参事官

北米課長

配布先

外務省

大蔵省

陸軍省

海軍省

文部省

逓信省

農林省

商工省

労働省

建設省

自治省

防衛省

警察庁

消防庁

国土庁

建設省

逓信省

文部省

大蔵省

陸軍省

海軍省

外務省

総務省

北米才一課長

配布先 (米長) (国長) (欧長)  
大臣、次官、外審、官長、精長 (安保、北米) (軍縮、科挙) (東交)

(社)

59日日本、八〇年代初期に核兵器廃止

ワシントン八日ワシントン

B-13.44

46.7.8

ワシントン八日ワシントン「ワシントン」紙が八日、ハリソン東京特派員電として報じたところによると、レオード米国防長官一行は、米ソ間に戦略兵器制限協定成立の場合に縮小傾向をたどる米国の核のカサの穴埋めをすため、日本が一九八〇年代初期に防衛用核兵器を展開することになると、すていという。

同記者は、「今度のレオード発言と日本政府との話し合いでは米ソ間の戦略兵器制限交渉(ALT)の見通しが取り上げられる予定だが、レオードは官一行は米ソ間で合意が得られた際日本は中国の核開発の脅威にまともに対処されることになり、さらに米国はこうした中国の核脅威を今般よりも若干年間は考慮に入れたいとみられることから、必然的に日本が独自に防衛用核兵器の開発を迫られると推測して、いよいよと述べた。その際の日本の防衛努力は、米利根艦に積載するABM(ミサイル迎撃ミサイル)の開発に注力する」と述べた。



◎日本が八〇年代に核戦力開発か  
在京米当局者が語る

【ワシントン八日斎田共同特派員】ワシントン・ポスト紙は八日、レオード米国防長官は佐藤首相ら日本政府首脳との会談で、米ソ戦略兵器制限交渉による核戦力の縮小が日本に与える影響について協議すると伝えるとともに、東京にいる米当局者が、日本は八〇年代には独自の核戦力を開発するようになるかもしれないと語ると報じた。

これは同紙の東京特派員電としての報道だが『東京にいる米当局者』がレオード長官に随行している米政府当局者か、在日米大使館当局者かは明らかになっていない。

(続)

NOV 17 96

同紙によると①米ソ戦略ミサイル制限交渉によつて米国の核戦力が制限される②米国は今後膨大な経費を使つて太平洋地域に核戦力を維持し続ける政策を変更するかもしれない③このような状況では

日本は中国の核戦力の脅威にさらされることになる④したが⑤日本は八〇年代初めには米国の核戦力による保護をさらに強化するために、独自の海上ABM(弾道迎撃ミサイル)を開発することを決めるかもしれないというのが米当局者の見方だという。

(了)

◎外26『日本が八〇年代に核戦力開発か』◎本文末尾に次を追加  
同報道はさらに、米国防総省の国際安全保障局の当局者がレオード長官に随行、日本側の防衛計画立案当局者と協議していると指摘したあと、沖縄返還のさいに米国の核兵器撤去の公開調査をするとの日本側の主張をレオード長官は拒否しているとみられると述べた。

米政府部内には、ベトナム戦争後のアジア情勢の安定を米國、日本、ソ連、中国の四方國の勢力均衡によつて保つとのニクソン大統領の基本的考え方が定着しているが、今回伝えられた米当局者の見方は、このような勢力均衡関係に加わっていくためには、日本が従来以上に軍事力を強化せざるを得なくなるだろうとの考え方を反映したものだといえよう。

北米一課長

急ム共A59政3

◎第七艦隊の任務にふれず

レアード長官の意向で声明

46. 7. 8

在日米大使館は八日、来日中の

レアード米国防長官の意向として

「米国防長官と中曾根前防衛庁長

官との会談では、米第七艦隊の将

来の任務に関する問題は話し合わ

れなか②た」との声明を出した。

これは七日、一部外電が五日の中

曾根長官との会談で、レアード

長官が米第七艦隊のいくつかの任

務を日本が引き受けることを希望

することを示唆した」と伝えたこ

とを否定したものである。

しかし、在日米当局筋が核問題

について「日本が米国の核抑止力

の恩恵を受けたいと希望するなら

、核兵器の有無については議論

できないことを認めなければなら

ない」の報道に対しては、特に声

明ではふれられなか②た。このこ

とについて大使館筋は、非公式な

見解として「(国防長官から)何

も言②てきていないのでそれでい

ふのはならいか」と述べた。

46. 7. 11. 55 (了)

M 42 ①「米七艦隊の着代わり」説をみる

② 米七艦隊、朝鮮を警備す

在日米大使館は八月、「シマーン米國代表  
官の耳目の中韓韓前防犯官並に公使と  
米七艦隊の日本國近水域より一却任務を日  
本の着代わりするに決定した」との外交電  
（七月）を各駐米の武領を警備した。各武領の  
回答は「シマーン國防長官と中韓韓前防犯官  
並に公使の公使は、米七艦隊の將來の任務  
に對する同意は致し合はなかつた」との事  
明す。いふにや。

また防犯防範の目、中韓韓・シマーン會  
談では日米間の海軍保障問題に「シマーン一  
般的に」と述べてきた。米七艦隊の着  
代わりは、是等の防犯に「は」合はなかつた  
とは「シマーン」に「は」合はなかつた  
「シマーン」の「シマーン」米の被抑止力と  
「は」合はなかつた。米七艦隊の着代わりは、  
「は」合はなかつた。米七艦隊は「は」  
「は」合はなかつた。



△共A/95政12④完①

◎米議会の承認、樂觀を許さぬ

木村長官、沖繩協定で言明

46.9.14

木村企画庁長官（臨時外相代理

）は十四日午後、東京・帝國ホ

テルで開かれた内外情勢調査会で  
講演、中国代表権、今後の日米関  
係などについて見解を述べた。こ  
の中で同長官は、今秋の国連総会  
での中国代表権について「総会で  
の先議権をとるため一日も早く具  
体案を決定する必要がある」と強  
調したが、その具体策としては①  
従来の重要事項指定方式ではもろ  
勝てない②二重代表制で北京政府  
に安保理常任理事國を渡すとの考  
えもあるが、国府議席擁護の立場  
をとる日本政府としてはこれも採  
用出来ない」と述べ、中国代表権  
問題で政府がきわめて苦しい立場  
に立たされていることを明らかに  
した。

(続) 45

△共A/96政12②

◎木村

同長官はまた、米上院での沖繩  
返還協定の審議について「すでに  
上院議員のうち十七、二十人がは  
きり批准反対の意思表示をして  
おり、樂觀を許さぬ情勢にな  
てゐる」ときびしい見通しを述べ  
た。九月の日米貿易経済合同委を  
中心とした日米間の経済関係調整  
の必要性を力説した。

同長官の発言要旨次の通り。

一、最近の日米関係は大きく変  
わつてきており、いろいろな「乱  
気流」が生じている。しかしこれ  
を打開する奇手妙手はなく、オー

九月の日米貿易経済合同委を中心とした日米間の経済関係調整の必要性を力説した。

同長官の発言要旨次の通り。

一、最近の日米関係は大きく変わってきており、いろいろな「乱気流」が生じている。しかしこれを打開する奇手妙手はなく、オーソドックスに取り組む以外にない。

一、この意味で、九月の日米貿易経済合同委はきわめて重要だ。お祭りのものでなく、相当突っ込んだ話し合いを行ない、打開の道を見つければならない。日本側代表団が出發する九月七日ごろまでに先の対外総合経済政策八項目の具体的内容を決めるが、米側を十分納得させるものでなければならぬ。

(続)

ム共A/97政121④

◎木村

一、沖縄返還協定の米上院提出は九月上旬になる見通しが強いが、すでに十七—二十人の議員がはきり批准反対の意思表示をしており、決して樂觀を許さない情勢だ。

一、今秋の国連総会での中国代表権についての政府の結論はまだ出ていない。しかし先議権をとるためにも一日も早く決定する必要がある。ただ、国連の場での審議に耐える、はきりいえば勝てるものでなければならぬ。重要事項指定方式がもう勝てないことは常識にならぬ。

一、具体案は十二、三あるが、

二重代表制は北京やアルバニア案支持国が賛成しない。またこの方式で、安保理常任理事国の席を北京に与えるとの考えもあるが、国府の議席擁護の立場をとる日本としてよこれを採用することは出来

一、沖縄返還協定の米上院提出は九月上旬になる見通しが強いが、すでに十七—二十人の議員がはきり批准反対の意思表示をしており、決して樂觀を許さない情勢だ。

一、今秋の国連総会での中国代表権についての政府の結論はまだ出ていない。しかし先議権をとるためにも一日も早く決定する必要がある。ただ、国連の場での審議に耐える、はきりいえば勝てるものでなければならぬ。重要事項指定方式がもう勝てないことは常識にならている。

一、具体案は十二、三あるが、二重代表制は北京やアルバニア案支持国が賛成しない。またこの方式で、安保理常任理事国の席を北京に与えるとの考えもあるが、国府の議席擁護の立場をとる日本としてはこれを採用することは出来ない。

▲共▲/98政12—④完

◎木村

このほか逆重要事項指定方式などの考え方もあるが、とにかく北京招請・国府追放のアルバニア案が通らぬのでは、国府を支持してきた日米など五十数カ国の立場だけでなく、中国非難決議などを行なう国連自体の問題にも影響してくるので、どうしても阻止しなければならぬ。

一、個人的見通しだが、沖縄臨時国会の召集は十月二十四—五日ごろにならう。同国会では、沖縄返還協定と並んで中国問題が中心議題とならう。

(了)



△共A 256社(沖)35(35)②  
完①①【メモ①①(ハ)】

◎故障で移送量減る

46.7.15

【沖繩・東恩納十五日共同】毒  
ガス移送初日の十五日は、トレ  
ラーによる移送が五回実施され、  
最終回⑤五回目は同日午後五時十  
二分に六台のトレラーが天願棧  
橋に到着した。

在沖繩米陸軍当局から琉球政府  
の毒ガス撤去現地対策本部(本部  
長、知念副主席)へ同日午後五時  
すぎにはい⑤た連絡によると、最  
終回⑤五回目はトレラー十台の  
予定が六台に変更され、移送量が  
八二トに減⑤た。この結果、同日  
の毒ガス移送量は五八九・四ト、  
当初予定⑤六三七・一トより四七  
・七ト減⑤た。

(続) 219

△共A 257社(沖)35②完

◎故障

最終回の移送量が減⑤た理由は  
、同日午後、天願棧橋で荷積み  
作業中の米海軍輸送船シー・リン  
ト号(一五、七五〇ト)の四基の  
クレーンのうち、最も活動してい  
た船首のクレーンが故障、この用  
か船倉内で動いていたフ④ークリ  
フトも故障したため。

また四回目の移送を終わ⑤て引  
き返す途中の化学消防車が故障、  
五十五分間立ち往生する事故も重  
な⑤た。クレーンヤフ④ークリフ  
トは午後五時すぎには修理を終え  
、積み荷作業は再開され、米軍  
当局も「すぐに修理したり代車を  
出したりするので作業にはさほど  
影響はない」としているが、沿道

46. 7. 15

【沖縄・東恩納十五日共同】毒ガス移送初日の十五日は、トレーラーによる移送が五回実施され、最終回●五回目は同日午後五時十二分に六台のトレーラーが天願橋橋に到着した。

在沖縄米陸軍当局から琉球政府の毒ガス撤去現地対策本部（部長、知念副主席）へ同日午後五時すぎにはい●た連絡によると、最終回の五回目はトレーラー十台の予定が六台に変更され、移送量が八二トに減●た。この結果、同日の毒ガス移送量は五八九。四ト、当初予定●六三七。一トより四七。七ト減●た。

（続） 219

▲共A257社（沖）55―●完  
●故障

最終回の移送量が減●た理由は、同日午後、天願橋橋で荷積み作業中の米海軍輸送船シー・リフト号（一五、七五〇ト）の四基のクレーンのうち、最も活動していた船首のクレーンが故障、このほか船倉内で動いていたフ●ークリフトも故障したため。

また四回目の移送を終わ●て引き返す途中の化学消防車が故障、五十五分間立ち往生する事故も重な●た。クレーンやフ●ークリフトは午後五時すぎには修理を終え、積み荷作業は再開され、米軍当局も「すぐに修理したり代車を出したりするので作業にはさほど影響はない」としているが、沿道住民や関係者の間では「初日からこの状態では、五十日間の長期移送のさきが思いやられる」と真剣に心配する声も出ている。

アメリカ局長

北米第一課長

局長

局長

配布先

大臣、次官、外審、官房長、情長

① 意外な結果(物評)??  
 「ワシントン二十七日時事特派員」米政府は日本の参院選を自民党が伸び悩み、社会党が進出したことについて、とくに公式の論評はしていないが、政府全体として、沖縄返還による新しい日米関係を頭にえがいていただけに、日本国民がこの新日米関係を拒否したのでは「ソリガ」と意外の感じをいっているようだ。

沖縄返還協定は六月十七日、東京とワシントンで同時に調印されたが、米政府はこれが自民党の参院選対策であったことを十分に承知していた。米側としては、鐵錐交渉はどどとかくギクシヤクシはじめた日米関係を調整し、新しい日米関係をつくりあげるために沖縄返還を出發点としてしようと考えていた。したがって沖縄返還交渉にあたってきた佐藤内閣が国民から大いに歓迎され、参院選で大勝するのは当然と受け取っていた。

② しかし、結果が自民党の伸び悩みと化したのは、日本国民の沖縄問題に対する関心が増え、化してしまつたためだとみる向きが米政府内に出ている。つまり、「返してやる」「返してもらう」といつた気持ちや双方にあつた大九年十一月の佐藤・ニクソン共同声明当時と比較、日本側が「返してもらうのは当然だ」との感情を押し始めたことを受け取つていられるわけだ。このため今後の日米関係悪化を今回の参院選の結果が暗示していると懸念する向きが多くなりそうだ。

米信

⑤ 23年内には批准完了目です

米議会、休み明けから沖縄審議

ハワシントン五日時事特派員「米上下両院は八月六日から九月八日まで休会にはいるが休み明けの上院はいよいよ沖縄返還協定批准のための審議に取り組むことになる。これまでも同協定には繊維関係議員と軍事関係議員が批判的だったが、米中関係改善ムードの中で軍事関係議員の返還協定批判は次第に弱れてきていると議会筋はみている。

米国務省筋が五日明らかにしたところによると、同省は現在返還協定とそれに伴う付属文書類を作成しており、これを八月中旬にニクソン大統領のもとに提出する。大統領は休み明けの上院に同協定を提案し、正式に批准の審議を要請するが、その時期はあくとも九月末までとし、年内に批准完了にこぎつけたというのが米政府の段取りである。

上院はまず外交委員会(フルブライト委員長)が中心となって同協定に関する聴聞会を十月ごろ開催し、ここでの審議を終えたうえで、フルブライト委員長が協定に勧告書を書いたうえで本会議に提出する。

いまのところ、政府、議会筋には返還協定

2)が外交本委員会を通過することには疑問をいだく向きは全くなく、フルブライト委員長以下、いわゆるハト派の牙(か)城といわれる同委員会は全員が同協定を承認すると思われている。しかし、協定が本会議にかけられた場合、サロモンド(共和党、サウスカロライナ州)、ホーリングス(民主党、サウスカロライナ州)、タルマッシ(民主党、シヨージア州)議員らの繊維関係議員やバスター議員(民主党、フロリダ州)らからクソ関係議員が日本側から貿易上の譲歩を得ようとして、審議妨害行為などをするのは必至である。

こういった動きに加えて、沖縄の軍事上の重要性を強調するバード議員(民主党、バー

シニア州)、ステニス(民主党、ミシシッピ州)、タマー(共和党、テキサス州)議員などの

軍事関係議員の動向も日本大使館筋では心配している。また、軍事委員会全体としては、ニクソン大統領の訪中表明を喜ぶきっかけに

ると、同省は現在返還協定とそれに伴う付属  
文書類を作成しており、これを八月中にニク  
ソン大統領のもとに提出する。大統領は休会  
明けの上院に同協定を提案し、正式に批准の  
審議を要請するか、その時期はおそらくも九  
月末までとし、年内に批准完了にこぎつけた  
いというのが米政府の取柄である。

上院はまず外交委員会(フルブライト委員  
長)が中心となって同協定に関する聴聞会を  
十月ころ開催し、ここでの審議を終えたうえ  
で、フルブライト委員長が協定に勧告書をも  
えたうえで本会議に提出する。

よまのところが、政府、国会筋には返還協定

2)が外交委員会を通過することに疑問をいなく  
向きは全くなく。フルブライト委員長以下、  
いわゆるハト派の牙(か)城といわれる同委員  
会は全員が同協定を承認するようみられている。  
しかし、協定が本会議にかけられた場合、サ  
ーモンド(共和党、サウスカロライナ州)、ホ  
ーリングス(民主党、サウスカロライナ州)、  
タルマツジ(民主党、シヨージア州)議員ら  
の繊維関係議員やバストア議員(民主党、コ  
ロドアイランド州)らフリン派議員が日本側  
から留身上の積弊を得ようとして、審議妨害  
行為なまじまじするのは危しむる。

こうした動きに加えて、沖縄の軍事上の  
重要性を強調するバード議員(民主党、バー  
ミンガム州)、ステニス(民主党、ミシシッピ  
州)、タラー(共和党、テキサス州)議員などの  
軍事関係議員の動向も日本大使館側では心配  
している。また軍事委員会全体としては、  
ニクソン大統領の訪中表明発表をきつかけに、  
アジアの緊張緩和、沖縄基地の重要性後退を  
連想する向きが多くなつてきているため、最  
後まで協定に反対するのはバード、タラー両  
議員程度ではないかとの見方も出てきている。た  
いずれにしても、外交委員会と別に軍事委

2)委員会)ステニス委員長(米)も協定の審議が必  
要だといった強硬論を果敢とこめて述べている。  
したがって、現時点での見通しとしては、決  
して樂觀はできないものの、結果のよからなし  
配は若くは強くないといったところだ。

北米才一課長

急共A90/外21 ③完一①

468.75

◎円切り上げ圧力強まる

IMFの抜本的改革へ

【解説】ニクソン米大統領は十

五日、ついに国際的には一時的な

ドル、金の交換停止と一〇%の輸

入課徴金の実施、国内的には貸金

物価の九十日間凍結による

所得交策の導入という劇的な政策

転換に踏み切った。

司大統領はち③うど一カ月前の

七月十五日、訪中計画の発表とい

う、外交政策の転換を打ち出した

ばかりであり、世界の大半は外交

経済両面で大きな転換に直面

することになる。特に日本は円

の切り上げを拒否し、また一方的

な対米経済進出をめぐり強い批判

を受けていた矢先だけに、日米経

済関係にも重大な影響が出てくる

ことが確実とみられる。

一時的な金・ドル交換の停止措

置に関連して同日コナリー財務長

官はIMF(国際通貨基金)にこ

れを通告するとともに、IMF改

善のための交渉を直ちに開始する

ことを明らかにしており、その過

程で日本円が切り上げに追い込ま

れることが予想される。

急共A9/外21②

◎解説

同長官は記者会見で「ドルと他

の通貨の平価に、ある程度の変化

が予想される」と述べており、す

でに明らかなる過小評価通貨とされ

ている日本円は、今後一層切り上

げの圧力にさらされることになる

う。

この米国の通貨政策の変更は九

月末のIMF総会を目前に控えて

、ニクソン大統領がドル防衛の

ために打ち出したいわば「切り札

」であり、戦後続いてきたIMF

体制は根本的に塗り替えられる

ことになりそうである。米国内で

はさる七日、議会のロイス分科委

員会が「IMFの主導権による主

要国の平価体系の再編成」を勧告

しているが、ニクソン大統領の発

表は、金・ドル交換の停止という

さらに思い切った手段をとったこ

とが注目される。

(7)

急共A92外21-3完

◎解説

一方、一〇%の包括的輸入課徴金制度は①現在輸入割り当て制度下にある品目②関税の対象になていない輸入を除くすべての輸入品にかけるもので、日本の対米輸出品目のほとんどが一〇%自動的に値上がりすることになる。ホワイトハウス当局の説明によれば、輸入課徴金は米国の輸入品の五〇%に及び、これによる年内収入は二十一億ドル(ただし輸入額を四百五十億として)になると推計されている。

これら金・ドル交換の停止と輸入課徴金は「ずれも」一時的措置」とされているが、コナリー長官、ローターソン国際経済政策会議事務局長は「国際通貨体制、米貿易収支の長期的安定が確保されるまで」と指摘しており、相当長期間にわたって継続される見通しである。その間、国際通貨体制、世界の貿易体制は大きな不安と動揺が避けられないものとみられる。

○(ワシントン) 渡辺共同特派員



急共A4/外15

◎ニクソン演説の要旨

46.8.16

ワシントン十五日AP共同  
ニクソン米大統領が十五日夜  
行なつた八項目の重要経済政策演  
説の要旨次の通り。

一、米経済および個々の納税者  
に対し、一九五六年の平和時以米  
達成されなかつた完全雇用という  
国家目標に向かつて前進するため

、広範な刺激策をとる。  
一、対外援助を一〇%削減する  
ことを議会に要請する。

一、私は本日、九十日間の貸金  
・物価の凍結を命じた。これは一  
時的な措置だが、インフレ抑制の  
ため、すべての米国民の協力を要  
請する。

(註) 46.8.16 17

急共A42外151②

◎要旨

一、米国のドルに対して全面戦  
争を展開している国際投機家たち  
に対し、われわれはドルを守らな  
ければならぬ。私はドルの金へ  
の交換を一時停止した。私は米経  
済は強力だと確信しているので、  
コナリー財務長官にこのきびしい  
措置をとるよう命じた。

一、われわれは新たな国際通貨  
体系の確立に努力する。私はドル  
を一度と国際通貨投機家たちの人  
質にさせない決意を固めている。

一、私は米國が第二次世界大戦  
後何十億も対外援助につき込んだ  
ことを後悔していない。しかし復  
興した諸国はいまや国際貿易の分  
野で公正に振る舞わなければなら  
ない。米國が国際貿易で片手を背  
後に縛られたまま競争する必要は  
、もはやなくなつた。

一、米國はドルとその他の通貨  
との交換率を変更するため、話し  
合いを始める。米國はすべての輸  
入に平均一〇%の課徴金をかける

(註)

急共A43外15-③完

一、我は米国民に対し、競争心を高揚させ、世界競争に自信を持つよう呼びかける。わが国が世界のナンバーワンの地位にとどまるかどうかは、国民いかにかかっている。われわれは競争を歓迎する。なぜなら、米国は競争を迫られたときにこそ、最も偉大であるからである。貝殻の中に身を縮めてはならない。また、われわれの最良の日々は過ぎ去ってしまったという憂うつな反響も信じてはならない。

我々次のように答える。われわれの最良の日々は未来にある。精神を高揚させ、視野を広め、人類に多大の貢献をしてきたこの偉大で立派な国、未来の世界を共有するこの国に対し、われわれの成しうるすべてをささげようではないか。

(丁)

0581

(E) 1, 2

ム共 A / 6 外 20 ③ 完 ①

◎ 国際通貨動揺は長期化

欧州反響

【ロンドン十六日共同】欧州諸

国は、金交換の停止に米國が踏み切らざるをえなかつたのは、ドル危機の深刻さを示したものであり、またニクソン大統領がこれ

で反対してきた賃金、物価の一時凍結を決めたことは、欧州がこれまで口をすくばくして強調してきた米國の自己努力によるインフ

レ抑制に米國がやゝと本腰を入れたいものと、好感をもつて受け取っている。

一方、輸入課徴金についても、世界の自由貿易にとつて好ましくはないが、直接的な輸入制限よりましであると肯定する態度をとっている。

しかし、インフレ抑制策にしても、即効は期待出来ず、また輸入課徴金制度も一時しのぎの便法に過ぎず、今回の措置によつて一〇

%ないし一五%の切り下げが当然とされているドル価値が回復するとは考えられな

い。

と

46.8.16

したが、国際通貨の根本的再編成は必至であり、九月のIMF (国際通貨基金) 総会で、仮に為替相場の変動幅拡大が決まるとしても、基本的解決はほど遠く、国際通貨の動揺は長期間続くと欧州はみている。

金交換の停止発表は、欧州側の予想を上回る思い切つた措置であり、金交換の自粛と、二重価格制の導入以来、たとえ有名無実化していたとはいえ、一対三五の金本位制を一時的に米國が一新したことは、戦後のIMF国際通貨体制にとつて革命的な転換である。

欧州諸國は、米國の金準備が百億ドルの危機ラインに達した現任、金交換停止によつて時間をかせぎ、その間に米國はインフレ対策の強化と輸入抑制策によつて国際收支を改善する一方、マルク、円など強い通貨の切り上げを實現するものとみているが、金交換の停止は、一方では米ドル切り下げの第一幕と受け取られることは明らかである。

このため、透明性の欧州市場では金価格の暴騰は必至であり、また為替相場の大混乱をきたし、情勢によつては、市場閉鎖も予想されている。

急共 A 87 外追加

46.816

共 A 44 / 外 15 ニクソン演説の要旨に以下を追加

一、私は議会に対し、工場、設備投資への投資税免除（初年度一〇%、平年度七%）の復活を要請する。また個人所得税の減税開始の時期を七二年一月一日に一年早めるより求める。さらに七%の自動車消費税の廃止も求めるであろう。これは一台当たり平均二百円の洒落引き下げとなる。

二、<sup>(米長)</sup>備投資への投資税免除（初年度一〇%、平年度七%）の復活を要請する。また個人所得税の減税開始の時期を七二年一月一日に一年早めるより求める。さらに七%の自動車消費税の廃止も求めるであろう。これは一台当たり平均二百円の洒落引き下げとなる。

三、連邦職員数の五%削減および七二年一月一日から実施される予定の連邦職員給与引き上げを六カ月遅らせることにより、七二会計年度中に連邦支出を四十億削減する。この支出削減を助けるため、私は地方交付金の交付時期を三カ月遅らせ、社会福祉計画の実施を一年遅らせる。

一、賃金、物価政策について何れもなすべきかを決定するため、コナリー財務長官を委員長とする生計費関係委員会を創設する。同委員会は賃金、物価の長期的な安定のための仕組みを作成する。

④ 11280 米が入輸送船で故障 15-18:23

11月21日の移送作業遅延

11月21日午後特派員がオニ次毒ガス移送  
作業が一日の十時午後、天候機橋でコシ  
・リントレ入の船積み作業に使われてい  
た船内のフットワリフト車二台が故障、さら  
に二台を船外にフリ出せらした際船のマ  
・インチも故障した。このためオ五回の輸送車  
両岸は千次より一時間十三分遅れて同午後四  
時三十分後に知在弾薬庫を出発し、同五時  
十分、入谷橋に到着した。

輸送車中のトレーラーの台数も十台か  
ら五台に減らされたが、これはオ五回に十台  
分を降下しても、十五日の日没までに船積み  
を完了できなかったため、米庫は同日午後五時半、  
同日の暮ガス陸送量に予定より三十八・一ト  
ン少なり五日か九トンだったと発表された。

なお米庫は船のフイレンサ、フオーワリフト  
車、故障はしており、十六日の船積み作業に  
支障はないとされている。 田山

115

北京 16日 新華社

中國は16日ニクワン米大統領に於

中國政府の招待を以て中國

を訪問するニて受諾した

ことニて發表した。

訪問時期は72年5月以前

の適當な時期の予定。



アメリカ局長

参事官

北米第一課長

手記  
米録

【那覇二日共同】琉球政府の知

念副主席は、行政上の混乱を理由

に二日朝、屋良主席に対し辞表を

提出した。同政府は最近、革新政

権の姿勢をめぐり、革新与党、臣

体、官公労との対立が激化し、官

公労が自治省から、天下りした

宮川総務局長の退陣を要求する動

きにまで発展していた。

同副主席はこうした事態の行政

責任をとって辞表を提出したもの

とみられるが、同時に事態打開に

リーダーシップを発揮しえない屋

良主席への強い不満の現われとも

みられている。

屋良主席はまたなんの態度も打

ち出していないが、副主席のほか

宮川総務局長の去就も注目されて

おり、屋良革新政権は復帰を前に

した重大時期にあつて、重要な局

面に立つた形である。

(了) 3344





アメリカ局長  
参事官  
北米第一課長

安全保障部長

ム共A46外9 ③完①

◎沖縄返還は来年半ばに

ロジ①一長官会見

【ワシントン二十三日高橋共同  
特派員】ロジ①一長官は

二十三日国防省で記者会見し、年  
末に当たってことしの米外交の成  
果と来年の課題を語った。同長官  
はこのなかでことしの米外交の成  
果の一つとして、沖縄返還協定承  
認を歴史的な成果としてあげ、ま  
た来年の外交課題としても沖縄返  
還問題を特に指摘し、返還の期日  
については「おそらく七二年半ばの  
ある時期になろう」と語った。  
これは日本政府が希望している

四月一日返還が困難なことを示す  
とともに、六月返還の可能性を示  
唆したものとも解釈される。

ロジ①一長官はこのほか一月  
サンクレメンテで開かれる佐藤首  
相とニクソン大統領の首脳会談に  
ついて「この会談はニクソン大統  
領が訪中、訪ソによつて、日本あ  
るいは日米関係には打撃を与えな  
いとの保証を与える機会となるう  
」と語り、日米首脳会談の主要  
テーマが中国問題になるとを明  
らかにした。

(続) 46 12 24 9 30

46.12.24

共A47外9-②  
◎沖縄

ワシントンの消息筋の間では、  
今回のニクソン訪中では第三国の  
問題としてベトナムだけでなく「  
日本問題」つまり米國が今後、ア  
ジアにおける日本をどのよりの方  
向にも②ていこうとしている」か  
が、米中首脳会談の主要テーマの  
一つになるとの見方が高ま②てい  
る。

一月の佐藤・ニクソン会談では  
米國の対中国政策が示される  
とともに日本が対中外交で独自の  
道を進むことを迫られるというき  
びしい場面も予想される。この意  
味では一月の日米首脳会談は日本  
の外交にと②て歴史的な転換点を  
迎えるき②かけになるかもしれな  
い。

(続)

ム共A48外9-1 ③完

◎沖縄

沖縄返還期日についてロジ①  
長官は「おそろく七二年の半ば  
ごろのある適当な時期になろう」と述べただけで、具体的の日取り  
については触れていない。

しかし消息筋によると、ホワイ  
トハウスではすでに六月返還で合  
意するより検討を始めたといわれ  
、佐藤首相がニクソン大統領に  
対して早期返還を強く要請すれば  
、六月返還が実現する可能性は  
あるとの見方が強い。

(了)

共A36外3

②完-1 ①

◎訪中で打撃をぬ保証を

長官、日米関係発奮全文

【ワシントン二十三日電】共同  
特派員「ロジ①」米國務長官の記  
者会見での日米関係発奮全文次の  
通り。

一、七一年の米外交を振り返ると、ベトナム化計画と米軍撤兵の促進、ニクソン大統領の助中決定、歴史的な沖縄返還協定などの成果がある。この協定は日米関係上画期的なものである。

一、七二年の米外交の課題としては、南ベトナムからの米軍の撤兵、ニクソン訪中、貿易制限撤廃交渉、沖縄返還などがある。沖縄返還期日は恐らく七二年半ばのある時期になろう。

(続)

46 12 24 9 40.

共A44外5 ②完①

③乗用車、テレビなど関税下げ  
米が一月から

【ワシントン二十三日共同】米財務省は二十三日、ケネディ・ラウンド（関税一括引き下げ交渉）の最終段階を来年一月一日に実施すると発表した。関税引き下げ品目は、乗用車（引き下げ幅〇・五％）、テレビ（同一％）、スコッチウイスキー（同ガロン当たり十セント）、食肉かん詰め（同一・五％）の四品目である。この結果、米国の関税対象品目の平均関税率は来年一月一日から〇・五％下がり、九％となる。

またこの引き下げで、日本の対米主力輸出品目である乗用車は三・五％から三％に、テレビは平均六％から五％に下がり、かなりの好影響を与えることになる。

（続）

46 12 24 0 47

②完

共A37外3②完

③防中

一、サンクレメンテでニクソン大統領と佐藤首相が話し合う問題は多い。日米関係は最も重要なものである。今度の会談はニクソン大統領にとり、佐藤首相との直接的な長時間の話し合いで、中国、ソ連訪問に關しての米側の見解を正確に説明し、これらの訪問によつて日本、あるいは日米関係には打撃を与えないとの保証を与える機会となる。

一、日本はアジア地域の礎石である。日米両國間の友好関係を保ち、相互信頼を維持することは、きわめて重要である。サンクレメンテ会談はニクソン大統領にとり、これを確認する機会となる。

（了）

◎日米関係は好転

グリーン発言詳報

【注】外記参照

【ワシントン二十二日林共同特派員】グリーン米國務次官補の発言要旨次の通り。

一、現在、日米兩國の中國に対する姿勢は國內世論の面でも、政府の政策の面でも非常によく似ている。日米兩國の中國に対する見方が同じようなものになつてきたのは、日本の世論が變つたためではなく、米國民が従来とは違つて成熟した考え方を持つようになったためである。兩國の政府の政策についていえば、きつめて緊密な協力が行なわれている。

一、先週は日米政策企画會が開かれており、國務省と日本の外務省の間には異例なほど緊密な関係がある。それわれは中國問題に關してのこのような緊密な協定と協力を続ける。

一、一方、ニクソン大統領と佐藤首相が六九年十一月に會談し、共同声明に調印したし、兩首腦は全世界に対して日米間の協同的協力関係を公表した。このように公表された協力関係があるだけに、なおさら日米兩國は相互協定の基盤に立ちながら、別個に、かつ各自に中國との関係改善を進めることが重要だと私は考えている。

一、それでなければ、中國側から日米間の協力関係は中國を敵視したものだと思はれることになるだろう。日米協力関係はこれまでもそのよりなものではなかつたし、現在でもそりではない。全く逆のものである。しかし中國はきつめて大きい疑惑を持つている。

一、したがつて日本と米國は中國との接点、特に對話を拡大しなければならぬ。それは行なわれている。

一、過去数年間にわたつて考えると、米國は日本との友好関係に努めてきたが、それは米中國を犠牲にしてでもということではない。しかし中國はそれのように思われたい。われわれが思つてゐるより以上に中國はそりなのかもしれない。私にはよくわからない。これは今後見守るべき問題の一つである。日米間の協力関係は中國敵視のものでないし、そのようにみなされてはならない。

一、われわれは中國との関係改善（日米間の）競争や先陣争いとみていない。日本は中國との覚書貿易協定に調印したばかりだし、双方の貿易事務所を働き、年間十億近く貿易をして、人事交流もしている。

米國は日本に追いつき、追い越そうとしているわけではない。ただ単に日本と同様、中國との対話の道を改善しようとしているだけである。競争というよりな考え方はやめよう。もし現在、諸大國間の対話が改善されなければ、われわれすべてが苦しむことになる。

一、日米兩國間の經濟關係では、これまでいろいろな問題があり、現在もある。これをめぐつてある程度の線路がある。しかし、これらの諸問題は解決に向かっていると思ふ。日米關係は半年前に比べると、ずつと健全になつてゐる。通貨問題は極く解決された。貿易問題は現つてはいるが、これについても非常に進展がみられる。貿易問題が解決の方向に向かつてゐることを私は歓迎する。沖繩返還協定が米上院で八十四対六で承認されたが、一、三カ月前にはこのよりな大差での承認は予想した人はいなかつた。

二、日本にとつては米國との建設的で健全な友好關係を維持する以外に道はないと思ふ。いまそのよりな關係が保たれてゐる。そして米國にとつてもそのよりな關係を日本との間に保つ以外に道はない。それは相互依存關係である。

米紙の参考 米紙の参考

共A/73外34 ②完①①

○期 日米大使にインガソル氏

NYタイムズが報道

【注】ラ。テは午後七時以降使

【ニ】ヨーク二十六日共同】二

十六日付けニ①ヨーク。タイム

ズが米政府筋の話として伝える

ころによると、ニクソン米大統領

は近く米國の新駐日大使として

ポート。S。インガソル氏(ポ

グ。ワーナー社会長)を任命する

意向といわれる。ホワイトハウ

当局。國務省當局はこの問題につ

いて論評を拒否しているが、同

氏は、日本政府がすでにインガソ

ル氏の任命に同意を与えているも

とみられると述べている。

マイヤー現大使の更迭は早くか

らうわさじ上り。一時は後任にマ

ーシ④ル。クリーン國務次官補の

名前が上がり⑤ていたが、最近はその

りした見方が立ち消えに⑥してい

た。ニ②ヨーク。タイムズは。

マイヤー大使更迭の理由として

『経済問題などに関して同大使が

日本に強い姿勢をとら⑦たこと

とにニクソン大統領とキ⑧ンジ

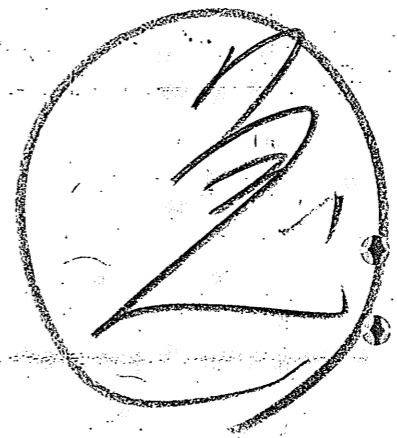
⑨補佐官が不満を持⑩ていたと

思われる』ことをあげている。

(完)

35 15 26 1 47

47. 1. 26



共A/74外34①②完

◎新駐日

ポーク。ワーナー社は自動車部

品。冷暖房器、ラジオ、テレビ製品

などのメーカーで、日本の会社と

もいくつかの提携関係があり、イ

ンガソル氏も取り引き上の仕事で

数回訪日している。タイムズ紙に

よると、同氏は共和党の積極的支

持派で、ニクソン大統領と親しい

関係にあるといわれる。同氏の駐

日大使就任が上院で承認されれば

、実業界出身の駐日大使として

は戦後初めての例となる。

(了)

先布記

大臣、次官、外務、官房長、精長

（北小工）

備録

ニ 〇 〇

◎駐日大使にインガソル氏(シカゴ実業家)

ニクソン大統領、マイヤー大使を更迭

★一すてにアグレマンボめる？

ニクソン米大統領はこのほどマイヤー駐日大使を更迭、ロバート・スラフアン、インガ

ルソル氏(ボルグワート)を起用す

るハラを固めたもようである。政府は同人

事について一切の発言を避けているが、日本

政府に対してインガソル氏のアグレマンを求

めてきていることは間違いないようである。

インガソル氏はシカゴの実業家であり、世

界最大の自動車部品メーカーの会長として日

本との関係も深い。ニクソン大統領がとくに

に実業家大使を連ねたのは日米を密関係の調

整を重視したものとみられる。

26-15'22

47.1.26

て  
て  
て  
て